

## 目次

二〇二二年第三十四回全国大会〈郵便・メール・オンラインによる全国大会  
シンポジウム

「学問の危機——知の自由、知への愛、知の復権」報告…………… 齋藤智志…………… 5

学知と自由…………… 齋藤智志…………… 8

——シヨールペンハウアー「大学哲学について」を読む——

監視と告白…………… 長綱啓典…………… 21

——ライブニッツの保健・衛生行政構想——

精神科学の知とはなにか？…………… 伊藤直樹…………… 28

——知の担い手であるために——

ニーチェとヴィッツセンシャフト…………… 鈴木克成…………… 36

——知の復権のために——

翻訳（連載）

シヨールペンハウアー『初期遺稿集』（十三）……………

共訳Ⅱ西章、シュタイナー堀郁、鳥越寛生、林由貴子、堤田泰成、太田匡洋…………… 54

アンドレーア・C・ハンゼルト

『二〇世紀におけるシヨーペンハウアー―シヨーペンハウアー協会史』(八)……………

監修||伊藤貴雄 訳||林由貴子……………72

書評

梅田孝太著

『ニーチエ…外なき内を生きる思想』……………生島弘子……………84

太田匡洋著

『もう一つの19世紀ドイツ哲学史

ポストカントにおける哲学方法論の系譜』……………堤田泰成……………89

大山真樹著

『時間・円環・救済―ニーチエの道德批判を導きの糸にした

永遠回帰思想の解明』……………谷山弘太……………94

河村克俊著

『カントと十八世紀ドイツ講壇哲学の自由概念』……………太田匡洋……………99

前川一貴著

『ニーチエの文化的戦略…概念装置としての「生理学」』……………本郷朝香……………104